

生きもののシンフォニー

いのちがやくなごや

令和6年12月

44号

特集

第9回 なごや生物多様性センターまつり

第9回なごや生物多様性センターまつりが11月9日に開催されました。さわやかな秋晴れのもと、ステージ発表や生体・標本・パネル展示、ワークショップなどを通じて、生きものとのつながりを体感する一日となりました。また、同時開催の「生物多様性ユースひろば」では、中高生が日ごろの活動や研究の成果を発表。来場者の質問に熱心に答える姿が見られました。



同時
開催

生物多様性
ユースひろば

CONTENTS

特集

第9回 なごや生物多様性センターまつり P1~4

同時開催 生物多様性ユースひろば

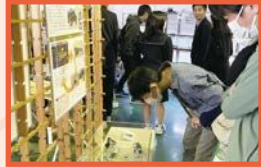
- TOPICS なごや生きものの一斉調査2024 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～ P5
- 活動紹介 稲沢・稲沢緑風館高等学校 ボランティア部ビオトープ部門 P6
- 掲 示 板 令和7年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集 P6



第9回 なごや生物多様性センターまつり

今年のセンターまつりには、41団体が参加。多くの生きものや自然に親しみ、生物多様性について楽しく学ぶ機会となりました。なかでも、特定外来生物のブラックバスの試食やワークショップは、家族連れに大人気で長蛇の列ができていました。

なごや生物多様性センターの出展内容



ミニ博物館、ミニ水族館、
なごやの里山の生き物に関
する展示などを行いました。

生きもの缶バッジ
GETだぜ!



各ブースにあるキーワードを集めると、生きもの缶バッジをプレゼント! 大人から子どもまで多くの来場者がチャレンジしていました。

ミニ博物館



センターに収蔵されている約2万5千点の標本の中から、様々なテーマに沿って一部を展示。市内で捕獲された外来種なども展示され、生態系に与える影響などを学ぶことができました。

ミニ水族館



なごやの河川やため池に生息する多様な水生生物を展示し、テーマに沿って水槽ごとに生態の特徴をわかりやすく解説。ニホンシガメやカワバタモロコなど、市内の絶滅危惧種も観察でき、来場者の目を引きました。



発見!なごやのプランクトンたち
名古屋市環境科学調査センター



なごやの淡水産貝類の多様性
名古屋市立大学生物多様性研究センター



名古屋市とその周辺の昆虫たち
名古屋昆虫同好会



やもんけん活動紹介および活動報告
名城大学 野生動物生態研究会



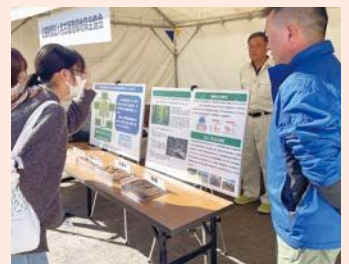
外来種ブラックバスの試食コーナー
なごや生物多様性保全活動協議会
(なごビオ)



天白の自然を学ぼう!
天白・もりのフォーラム



みんなでやろまい!なごやの森づくり!
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会



剪定枝、刈草を原料に堆肥を
製造しています
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会



名古屋港のスナメリ
名古屋港水族館



研究室の活動紹介
四日市大学 野生動物保全学研究室



「人と自然が共生するあいち」を
目指そう!
愛知県環境局環境政策部自然環境課



猫のことを考えよう
名古屋市動物愛護センター



「全力で科学を楽しむお手伝い」をするメンバーが、生きものにまつわる科学実験を披露。オニバスの種でのポップコーン作りやテッポウオの捕食行動の再現、落ち葉布団の温度の測定など、楽しい実験を通じて科学のおもしろさを実感できました。生態系のつながりについても解説があり、子どもも大人も興味深そうに耳を傾けていました。



オーストラリア・ジロング市派遣中学生によるステージ「飛び立て！藤前干潟の未来のために」



藤前干潟は北半球と南半球を行き来する渡り鳥の中継地。名古屋市は渡り鳥のルートでつながるオーストラリアのジロング市と平成19年に湿地提携を結び、環境保全に主体的に取り組む人材育成を目指して2年に1度、中学生を派遣しています。今回は今年の3月に派遣された中学生たちが、環境保全活動やゴミの分別の重要性など、現地の取材や人々との交流を通じて感じた思いや学びを発表しました。



みつばちと命のサイクルから学ぶ！
～ BeeHappy Project ～
地球ハグ倶楽部



食品ロスを減らすために、
できることから始めよう！
2R推進実行委員会 食品ロス削減推進部会/
名古屋市環境局資源循環推進課



私たちの暮らしと生物多様性
名古屋市環境局環境企画課



守ろう！つなげよう！東山の森
NPO法人 なごや東山の森づくりの会



ふれてみよう！つなげよう！なごやの自然
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員
連絡協議会名古屋支部）



不思議なクモたち
中部蜘蛛懇談会



知多半島の生きものと遊ぼう！
命をつなぐProject 学生実行委員



チリメンモンスターをさがせ！
「あいちの海」グリーンマップ



貝から学ぼう！生物多様性
株式会社 地域環境計画 名古屋支社



藤前干潟ふれあい事業のご紹介
藤前干潟ふれあい事業実行委員会
(名古屋市環境局環境企画課内)



名古屋市の宝～藤前干潟～
NPO法人 藤前干潟を守る会



ワシの大きさとタカの大きさ
日本ワシタカ研究センター



Shall we MOSS! コケしませんか！
苔むす会



みんなで守ろう！なごやの生きものたち
なごや生物多様性保全活動協議会
(なごびお)



お絵かき収集車
名古屋市天白環境事業所



学生たちが日ごろの活動を紹介した「生物多様性ユースひろば」。今年は15校が参加し、来場者と交流を深めました。

愛知県立佐屋高等学校 科学部



水田農法が水生昆虫に与える影響の比較調査や廃棄レンコンを利用したバイオ炭の製造など、農業科のある高校ならではのパネル展示が行われました。

東海中学校・高等学校 生物部



魚班、虫班、両生・爬虫類班が1年間の活動で得たデータと生体・標本の展示を実施。環境の変異や外来生物問題を取り上げ、生きものにおよぼす影響を訴えました。

名古屋経済大学市邨中学校・ 高等学校生物ゼミ



推しの生きものを調査するゼミ。校内で調査したクモの調査報告、鳥の羽を用いたストラップづくり、ゼミのマスコットでもあるオカメインコの展示を行いました。

名古屋市立向陽高等学校 科学部



アシダカグモの脚にある可動性の棘、だしの素で土のバクテリアを培養など、各自がユニークな視点で取り組んだ調査を発表。熱心に質問に答える姿も見られました。

愛知県立瑞陵高等学校 理科科2年生「理数探究」



光の波長が植物の成長に与える影響、アリが未経験の状況におかれた際の集団的な行動を研究した2班が、調査結果を報告。来場者からは質問が寄せられていました。

愛知県立明和高等学校 SSH部生物班



生命の設計図であるDNAに興味をもってもらうことを目的に、DNAストラップ製作のワークショップを開催。多くの子どもたちが夢中で取り組んでいました。

名古屋経済大学高蔵高等学校・ 中学校理科部



外来種駆除を目的に、毎月1回、地道に継続している山崎川での生物調査を紹介。脱皮して間もないモクズガニの展示も行われ、来場者は興味津々でした。

南山高等学校・中学校男子部 理科部生物班



飼育する生きものや標本の展示、改良メダカのかけ合わせについての報告を行いました。水生昆虫のタイコウチの展示に、子どもたちが釘付けになっていました。

愛知県立愛知総合工科高等学校 理工探究部



「生物の構造を工学的に観察し、活用しよう」がテーマ。カエルロボットの設計のために透明標本を作製した事例、トンボの羽ばたき機構の製作事例を紹介しました。

名古屋市立桜台高等学校 天文部生物班



天白川および南区のため池での生態系・水質調査など、日ごろの活動の成果をポスターで展示。透明骨格標本の作成・展示を通して、生きものの魅力を伝えました。

名城大学附属高等学校 自然科学部



庄内川の生態系調査とさまざまな場所で駆除された生きものの骨格標本を展示。肉食動物・草食動物の違いについて、来場者にていねいに説明していました。

栄徳高等学校 生物部



豊田市での二ホンカモシカの生息状況の報告と愛知県内に生息する哺乳類をはく製・骨格標本を使って紹介。珍しい生き物が身近にすることがわかる展示でした。

稲沢・稲沢緑風館高等学校 ボランティア部ビオトープ部門



昨年、ボランティア部に発足したビオトープ部門。稲沢市下水道科学館の市民団体「ビオピース」との地域連携活動の報告や、三宅川で採集した生きものの展示を行いました。

愛知県立古知野高等学校 環境社会班



木曽川に生育するカワラサイコ、カワラナデシコ等在来種を「カワラ姉妹」と命名。保護活動に関するパネルや、押し花・ドライフラワーの展示を行いました。

名古屋大谷高等学校 化学部



金魚はどのように品種改良されてきたのかを紹介。人間都合による品種改良への問題提起を行いました。金魚をフナに戻す驚きの研究成果の報告も行いました。



ステージ発表しました。

講評：(午前の部) 四日市大学 野呂達哉 特任准教授、
(午後の部) 名古屋市立大学 熊澤慶伯 教授

ユースひろば15校のうち5校が、日ごろの活動内容や成果を披露。
生きものへの探求心あふれる発表に会場からは大きな拍手が贈られました。

- ・名古屋市立向陽高等学校 科学部
- ・名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 生物ゼミ
- ・愛知県立愛知総合工科高等学校 理工探究部
- ・東海中学校・高等学校 生物部
- ・愛知県立明和高等学校 SSH部生物班

なごや生きものの一斉調査2024 アメリカザリガニとエビ・カニ類 編

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）主催の「なごや生きものの一斉調査2024」が9月29日（日）、10月5日（土）、10月6日（日）に開催されました。

今年のテーマは「アメリカザリガニとエビ・カニ類」。親子連れや学生らが参加し、市内22カ所の川や池、湿地などで採集を行いました。



モンドリの中を覗き込む参加者たち



身近だけれど、やっかい?「アメリカザリガニ」

赤褐色の体色と大きなハサミが特徴のアメリカザリガニは、1927年にウシガエルのエサとして輸入されました。その後、養殖場から逃げ出した個体が、周辺の河川や水田で繁殖し、日本中に広がりました。日本の生態系に大きな影響を与えることから、2023年に「条件付特定外来生物」に指定され、現在は販売や放流などが禁止されています。今回の一斉調査では、名古屋市内のアメリカザリガニやエビ・カニ類の生息状況を調査しました。

調査当日、調査地の一つである猪高緑地の塚ノ杵池では、集まった参加者らにリーダーから調査の趣旨・注意事項が説明されました。猪高緑地は66.2ヘクタール、東京ドーム約13個分の広さがあることから、道に迷った際の対応や、スズメバチやマムシへの対処法についても説明がありました。

調査には「モンドリ」と呼ばれる罠を使用しました（注）。箱状の網にエサを入れて水中に沈めると、生きものがエサに引き寄せられて中に入り、狭い入り口から出られなくなる仕掛けです。罠の取り扱い方などについて説明を受け、参加者らは池に向かって慎重にモンドリを投げ入れました。



在来種のスジエビなどを捕獲!

捕獲は、罠を仕掛けてから30分以上待つ必要があるため、まずはあらかじめセットしておいた4個のモンドリの確認からスタート。子どもたちが中心となって、順番に仕掛けを引き上げていきました。

「何が捕れたかな?」調査リーダーに促されてモンドリの中を覗き込むと、ピチピチと跳ね回る生き物を発見。「あっ、いた!」「小さい!」と参加者らは興味津々です。逃げないように注意を払い、優しく丁寧に観察用のケースに移し替えていきました。

その後、簡易同定表を使ってどのような生きものが捕獲できたのか調べました。捕獲されたのは、在来種のスジエビと特定外来生物のブルーギル、カダヤシでした。アメリカザリガニは見つかりませんでしたが、調査リーダーからは「普段、塚ノ杵池でスジエビが見つかることはほとんどない」と驚きの声が聞かれました。最も多く捕獲されたブルーギルは、小型の個体であったため、捕獲後に集合場所に帰り、ルーペを使って観察。簡易同定表と何度も見比べながら確認を行い、普段接することの少ない生きものの様子に大人も子どもも夢中になっていました。

この詳しい調査結果は、今後まとめて報告する予定です。



同定表と見比べながら同定作業



これは何かな?ルーペを使って観察



在来種のスジエビ



特定外来生物のブルーギルとカダヤシ

その他の 地点で捕獲した 生きもの



アメリカザリガニ（大高緑地内の湿地）



ミズレヌマエビ（庄内川）



モクスガニ（滝ノ水北池）



捕獲されたアメリカザリガニの計測の様子（大高緑地）

（注）モンドリは愛知県漁業調整規則により使用が制限されている漁具であり、本調査については所定の手続きを経て使用しています。

ボランティア部ビオトープ部門は、学生時代になごや生物多様性センターでカワバタモロコの研究をしていた顧問の先生が「高校周辺に生息する絶滅危惧種のカワバタモロコを保全する活動を引き継いでもらいたい」との思いで生徒らに呼びかけたことをきっかけに、昨年ボランティア部内に発足しました。本校には農業科があることから、生きものに関心のあるメンバーが多く集まり、熱心に活動しています。

ビオトープ部門の活動は、稲沢市の「メタウォーター下水道科学館あいち」のビオトープを育てている市民団体「バイオピース」との連携から始まりました。生徒らはビオトープでの生物観察や伐採した木へのシイタケの種菌の植え付け、稲作、野菜の収穫などをお手伝いしています。なかでも、ビオトープ内で増えすぎたアメリカザリガニを管理するために実施しているザリガニ釣りは、来場者から好評のイベントだといいます。

このほか、高校周辺の三宅川などで生きものを採集し、稲高祭（学校祭）で展示を行っています。カワバタモロコの保全活動にも熱心に取り組んでおり、農業科の授業で学んだ知識を活かし、農業の影響を研究するようになった生徒もいます。

ビオトープ部門は、今後も地域との連携を深め、環境保全の大切さを伝える活動に取り組むことを目指しています。そ

のために、地域のイベントへの参加や、学校内に新しいビオトープを作る計画も進行中。学校周辺にはめずらしい生きものが多く生息しており、生徒らは「稲沢の恵まれた環境を活かして、地域の自然環境を発信していきたい」と熱く語ってくれました。



掲示板

令和7年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の“後継者育成を目的とする活動”を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。

令和7年1月6日から2月5日まで、令和7年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。

協議会ウェブサイト



<https://bdnagoya.jp/>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー

検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会
<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄
塩釜口駅2番
または
3番出口から
徒歩5分

